



## ドイツと日本は似ているか

作家・ドイツ在住 川口マーン恵美

### どちらも規則には忠実だが

ドイツと日本は世間で思われているほど共通点が多いわけではない。実は、似て非なる国であると、ずっと思っていた。

似ているところは割と表面的なこと。例えば、時間の正確さ、衛生観念、チームワークの巧みさ、規則に対する忠実さ(チームワークは規則に忠実でなければ成り立たない)など。政体や法律体系、国民全体の教養、経済状況、生活レベルも似ている。また、産業はどちらも製造業が強い。

ところが、考え方、感じ方となると、あまり似ていない。今、規則に対する忠実さと書いたが、ドイツ人は譲り合いの精神は希薄で、規則がないところでは思い切り弱肉強食の原理に切り替わる。また、一度言い出したことはとことん主張し、自分の間違いを認めない。人をグサグサ刺すような激しい討論は、聞くのもするのも大好きで、しかも、それで傷つくことはなく、終わったら笑顔でバイバイと言える頑強な精神構造もっている。それに比べて日本人は、できることなら討論だけは避けたいと思っている。

### 長期計画が得意なドイツ人

ただ、何ととっても最大の違いは、ドイツ人は自己矛盾にめげないところだ。強い理想主義と強い現実主義の両方を合わせもつ人たちのので、矛盾はしばしば生じるが、そんな時、ドイツ人が強い語気で“Das ist so!”(だからそう

なの!)と言って、それ以上の論争を封じ込めるさまは、ほとんど<sup>かみわざ</sup>神業的でもある。日本人にはドイツ人ほどの理想主義者は少ないし、たとえ理想主義者でも、現実を完全に無視することはない。また、他人に矛盾を指摘されれば反省し、修正を図る。「だからそうなの!」では片付けない。

さらに言えばドイツ人は、ひどく遠大な、自分が死んだ後にようやく達成できるような気の長い計画を立てることができる。ちなみに、これを政治家ができるか、できないかで、国の歴史は時に大きく変わってしまう。ドイツ人の長期計画が成功した典型的な例が、ホロコーストの汚泥からの復活だ。それも、ただの復活どころか、今や、世界で一番道徳的に秀でた国という定評さえ得た。

それに比して、たいていの日本人は、自分が生きている間の長期計画さえ不得手で、政治家に至っては、次の選挙までしか考え(られ)ない人が、一番偉くなったりする。いきおい政治は行き当たりばったりになり、近隣諸国の言う通りに譲歩を続けているうちに、根本的には何一つ解決できず、日本は主語を失ったまま今日まで来てしまった。

### よく似たコロナ対策

ところが、である。最近の私は、ドイツ人と日本人はひょっとすると、けっこう似ているのではないかと思い始めている。例を2つ挙げる。まずは、国防意識の欠如。